

教科	数学	科目	数学Ⅱ	5単位	年次	2年次
使用教科書	啓林館 詳説 数学A 改訂版 (61 啓林館 数Ⅱ 324)					
副教材	改訂版 教科書傍用 サクシード 数学Ⅱ+B(ベクトル 数列) (数研出版)					

1. 担当者からのメッセージ (学習方法等)

数学ⅠAに比べて、より発展した内容を学習します。問題が解けるかどうかを単に目指すだけでなく、なぜこうなるのかを説明したり、なぜこのような公式なのかを理解し、証明できることを目指します。

2. 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、論理的思考力・数学的技能・能力・思考力を身につけることを目指す。
方程式、関数、微分・積分について発展的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 数学的な技能	d: 知識・理解
観 点 の 主 旨	数学のよさを認識し数学を活用しようとする。また、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする。問題解決の過程を振り返り、考察を深め、評価・改善しようとする。	身の回りの事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	身の回りの事象や、数学特有の事象について、数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	数学における基本的な概念をさまざまな方法で表現する方法を理解し、説明しようとしている。また、数学的な概念を他者に説明する際、数学的な概念を用いて効果的に説明することができる。
評 価 方 法	・授業態度 ・課題提出 ・プレゼンテーション	・課題提出 ・小テスト ・定期試験 ・プレゼンテーション	・課題提出 ・小テスト ・定期試験	・課題提出 ・小テスト ・定期試験

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

月	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	式と証明 方程式	整式	○	○	○	○	a: 整式、方程式に関心をもち、そのよさに気付こうとする。 b: 身の回りの事象や、数学的な事象を考える際、整数の性質や方程式を利用することができる。 c: 整式、高次方程式、図形と方程式などの計算を行うことができる。 d: 方程式の様々な性質を理解し、その仕組みについて考察することができる。	授業態度 課題提出 小テスト
5								
6		式と証明・高次方程式 図形と方程式	○	○	○	○		
7								
9	さまざまな関数	三角関数	○	○	○	○	a: さまざまな関数に関心をもち、関数の利用方法などを考えることができる。 b: 身の回りの事象や自然の中で数学が利用されていることを理解し、また自分自身でどのように身の回りや自然の中で活用することができる。 c: グラフ、関数にかかわる基本的な問題に取り組み、解くことができる。 d: 関数にかかわる基本的な公式を理解し、証明に取り組むことができる。	授業態度 課題提出 小テスト 定期テスト
10								
11		指数関数・対数関数	○	○	○	○		
12	微分・積分	微分法	○	○	○	○	a: さまざまな関数に関心をもち、微分積分の利用方法などを考えることができる。 b: 身の回りの事象に微分や積分が利用されていることを理解し、また自分自身で身の回りの事象に活用することができる。 c: 微分、積分にかかわる基本的な問題に取り組み、解くことができる。 d: 微分、積分にかかわる基本的な公式を理解し、証明に取り組むことができる。	授業態度 課題提出 小テスト 定期テスト
1								
2		積分法	○	○	○	○		
3								

※表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 技能 d: 知識・理解

※ 原則として一つの単元 題材 で全ての観点について評価することとなるが、学習内容 小単元 の各項目において重点的に評価を行う観点もしくは重み付けを行う観点 について○を付けている。